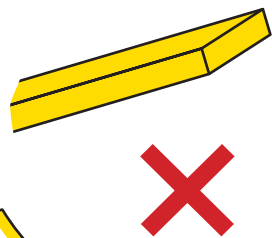
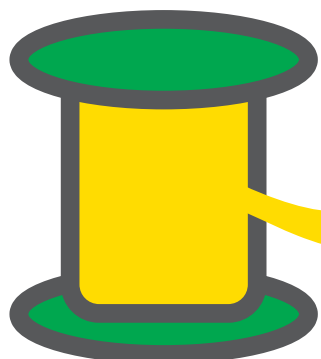


ラメ糸の形状と編物との相性

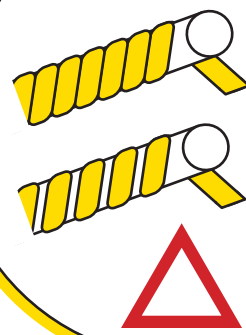
ヒライト
平糸

平糸(ボビンに巻かれたテープ状のラメ糸)を、そのまま編物で使用することはほとんどありません。経編で使用されることはありますが、強度のある特別な平糸を使用します。

平糸は扁平状なので、ツルツルして編み針に引っかかりにくいです。

また、供給形状がツバ付ボビンであることが多いのも、うまく使えない一因になっています。

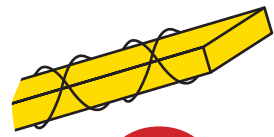
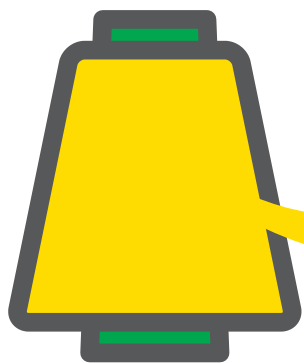
下図のタスキ撚、羽衣撚、ブリヤン撚など、平糸を撚糸したものを使用すると相性が良くなります。

マルヨリ
丸撚・ジャバラヨリ
蛇腹撚

芯糸にラメの平糸が密に巻きつけられたタイプです。形状は丸くなめらかですが、これが編生地の中にたくさん入っていると、ゴリつとした手触りになり、意外と硬く感じます。

そのため、身生地などに使用するケースは少ないです。部分装飾などには使用されることがあり、太番手の丸撚を編んで、金属のチェーンのように表現されています。

タスキ撚



編物ではとても良く使用されます。タスキ撚とは、ラメの平糸を真ん中にして、ナイロンやポリエステルなどの糸を2本掛けてカバーリングしているものです。S撚とZ撚で糸を掛けているので、着物のタスキ掛けのような X (バツェン) の形状になります。

糸を掛ける理由は、編み針に引っかかり易くするためです。ラメのピカーツとした光沢をできるだけ邪魔しない為に15~20デニールの細い糸を掛けます。

あえて太めの糸をカバーリングし、ラメの光沢を控えめにすることもできます。

ハゴロモヨリ
羽衣撚・ブリヤン撚

「ハゴロモ」と呼ばれ広く使用されているラメ糸です。定番は75デニールの糸に130切のラメの平糸が甘くカバーリングされたものです。

ラメがネジれてキラッキラツとした光沢になります。

ラメの浮いた部分が編み針に引っかかって切れてしまう事を防ぐには、15~20デニールの細い糸を上から掛ける「ブリヤン撚」がおすすめです。

細い糸がラメの浮きをしっかりと抑えてくれます。